

糖尿病患者の通院中断と糖尿病性眼疾患の関連性

本抄読会では、現時点における修論構想を発表する。

また、修論への応用可能性のある論文として、対象疾患が異なるが医療アドヒアランスの観点から、医療データベースを用いた服薬アドヒアランス研究論文を紹介する。

【論文概要】

本研究の目的は、HIV 抗レトロウイルス療法のアドヒアランスに関する薬局データに基づくリフィルのアドヒアランス測定法の妥当性と有用性を明らかにすることである。

HIV 感染者 110 人を対象に、観察コホート研究を実施した。

ウイルス量は、リフィルのアドヒアランス指標が 10% 増加するごとに $0.12 \log c/mL$ (95% 信頼区間 [CI] $0.01-0.23 \log c/mL$) 減少したのに対し、自己報告のアドヒアランス指標では $0.05 \log c/mL$ (95% CI $-0.14-0.25 \log c/mL$) であった。このように、リフィルによって定義された指標のみが、ウイルス量の変化と統計的に有意に関連していた。アドヒアランスを良好 (85% 以上) と不良 (85% 未満) に分類した場合、どちらの指標もグループ間で結果に有意差があることが示された。しかし、アドヒアランスが 100% であると自己申告した人において、リフィルのアドヒアランス指標で良好と分類された人は、不良と比較してウイルス量の減少が大きかった ($2.4 \log c/mL$ [四分位範囲 1.4-3.4] vs $1.5 \log c/mL$ [四分位範囲 0.8-2.4, $P = .03$])。

この手法は、100% の服薬アドヒアランスを自己申告する者に対して臨床的に適切な情報を提供し得る。臨床現場や服薬アドヒアランスの研究に取り入れるべきものである。

【紹介文献】

Robert Grossberg, Yawei Zhang, Robert Gross: A time-to-prescription-refill measure of antiretroviral adherence predicted changes in viral load in HIV. J Clin Epidemiol 2004;Oct;57(10):1107-10